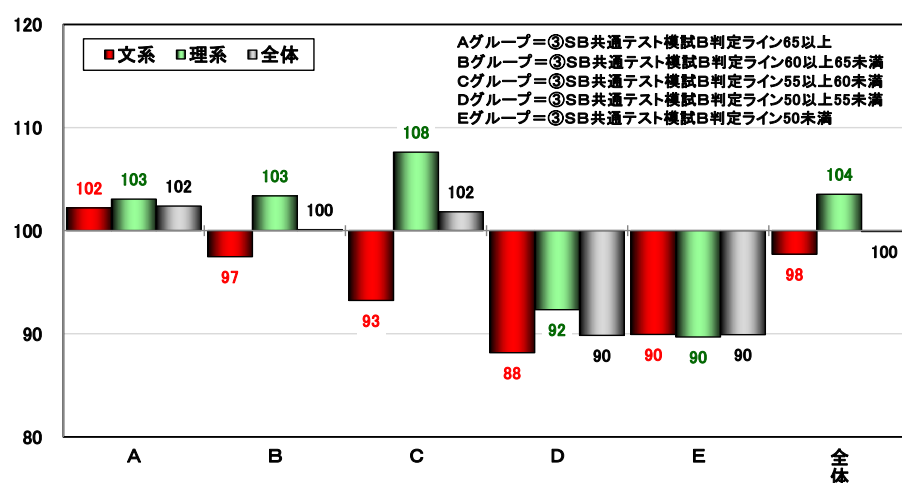


※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

## ◎模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

### □文理ともにD・Eグループは減少率が高く、一般選抜離れの傾向



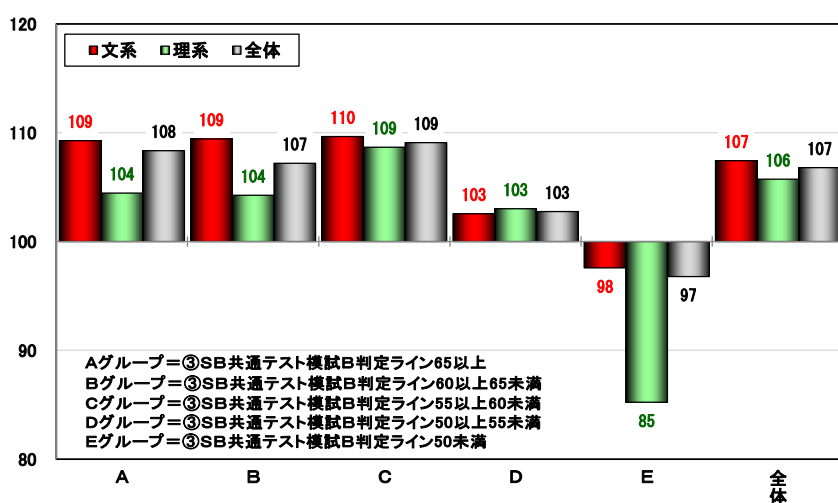
左のグラフは、私立大 545 大学の一般選抜入試の志願者数集計において、2021 年度第 3 回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で 5 つのグループ(上位 A グループ～下位 E グループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、文系(98)は前年度並、理系(104)はやや増加でしたが、文理ともに B 判定ラインが低い D グループ・E グループの減少率が大きくなりました。

グループ別では、文系では、A グループ(102)のみが微増でしたが、他の 4 つのグループはいずれも減少で B グループ(97)から D グループ(88)、E グループ(90)に向かって減少率が大きくなりました。特に、D グループ・E グループに含まれる大学では入学定員全体に対する特別選抜(総合型選抜、学校推薦型選抜)の募集人員の割合が高く、一般選抜で入学をめざす受験生が減少していることが分かります。

一方で、理系では、C グループ(108)は増加、A グループ(103)、B グループ(103)はやや増加でしたが、D グループ(92)、E グループ(90)は減少でした。共通テストの平均点ダウンの影響は理系の方が大きかったことから、国公立大併願者を中心に難関大を避けて C グループに出願先を求めた状況が見られます。また、文系同様に D グループ、E グループでは特別選抜主体の学生募集となっていることから一般選抜で入学をめざす受験生が減少していることが分かります。

### □合格者数は文理とも増加だが、Eグループでは文理とも減少、競争は緩和



左のグラフは、私立大 544 大学の一般選抜の合格者数集計において、2021 年度第 3 回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で 5 つのグループ(上位 A グループ～下位 E グループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、文系(107)、理系(106)といずれもやや増加しました。

グループ別では、文理ともに A～D グループで増加し、E グループは文系が微減、理系が大幅減少でした。

文系は A、B の 2 つのグループでいずれも 9% 増加、C グループで 10% 増加していて、逆に志願者数は A

グループ以外で減少しているため、競争が緩和していることがわかります。一方で、微減のEグループ(98)も志願者数の減少が大きいため、競争が緩和しています。

理系は、A、Bの2つのグループはいずれも4%のやや増加、Cグループは9%増加でしたが、志願者数の増加とほぼ同じ割合で前年度並の競争となりました。Dグループ(103)はやや増加でしたが、志願者数は減少しているため競争が緩和しています。Eグループ(85)は大幅減少で志願者数の指数以上に減少しました。特別選抜主体の学生募集となっていることから、一般選抜での合格者数の割増しが少なく、競争が厳しくなっています。

なお、理系のAグループ(104)は、医で合格者数未発表の大学があるため、今後状況が変わる可能性があります。